二十日夕刊

磐城毎日新聞

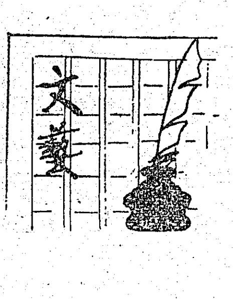
□本紙一ヶ月金六十錢
□郵税金十五錢
□一部賣金三錢
□廣告料一行金六十錢
□雜報欄金九十錢
□場所指定一行金一圓
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

隣組よ精神的に（下）

はの、宇

謂はゞ人間の構造その儘の生命体で、有機的に結び合ふ機能を全うする諸器官の間に摩擦もなければ相コクもなく不平もない、各々その職場に忠實なるが故に健康を保てる國家もさうあらねばならぬのだ。重ねて云ふ萬民協同の全体國家主義は精神的結合の生命体であるのだ。國家はそれでなければ亡びて終ふのだ。

勿論國家に限らず精神的でないものには生命がない。それは舊体制の個人主義小結合にも數多の悲運を見せてゐる。私の知る町に相當勢力のあつた地元の本店銀行が二つあつた。一を周圍するものには奸智に長けたお世辭の上手な狡猾者が多かつた。も一つのものには比較的地味な眞面目なお世辭嫌ひな精神的の人達に取卷かれてゐた。この二つの銀行が歐洲戰後に於ける經濟界のパニックで相前後して取つけに遭つたのであるが、狡猾な者共の周圍せる銀行は跡形もなく倒れ、當時銀行を中心として相寄つた同志と稱する面々も美味い汁が吸へるうちだけのこと誰一人銀行の破綻を顧みるものがなく四離八散して終つたが、眞面目な人々の周圍せる銀行は某銀行と合併し、地方金融機關に重きをなして現存してゐる。兩者の姿には銀行それ自身の中心者にもよることながら、まことによい教訓だと思ふ。隣組に對して特に精神的であれと望みたい。



白梅の花に　對ひて　靜かなる　この眞少女やその火と　燃えむ

水町京子

山口ハルエ先生の思出

和田文夫

（三）

ハルエ先生から最初にして最後のハガキを戴いた事がある。實はそのハガキが面會の機會を作つて吳れたとも言へるのである。

それは伯父高木誠一の紹介で柳田國男先生を中心とする民間傳承の會へ加入して、第二卷五月號に若者組についての雜文を報告した事があつた此の時「只今民間傳承の會誌が來たので見たらあなたの名前が出て居りました。九年程前大浦小學校に勤めて居つた當時の記憶に今見るあなたの名前と同じ方があつたかと思ふ。妹さんも知つてゐます。私は會員ではないが彌一郎が會員であり、磐城の人達數人が時々私の家に集つて研究して居るし、パンフレットも二三あるから平へ出たなら寄つて見ないか」と云つた意味のものであつた。昭和十二年五月二十六日付である。

それへ私は、「御記憶の名前はやつぱり私です。御主人彌一郎先生の御名前は伯父を通じ又會報紙上にてもよく存じて居りました。磐城民俗研究會を起された事も伯父から話されて居た」旨等を書き送りそれに子供心に苗字山口と地名山口云々と言つた感じ等も書き添へた樣に記憶してゐる御訪ねさして戴きます、と言ひながらも、つい家業に追はれて其の機を得ずに十月を迎へてしまつたのだつたが、東北帝大の民俗學講座へ柳田先生が御出席の途中、平へ寄られると言ふ事を伯父から知らせられ、マルトモホールで開かれた講演並に座談會席上で初めて彌一郎先生初め、岩崎敏夫先生其の他の研究會の方々とも相知るを得たのであつた。

其の後磐城しんめい研究の打合せの爲、會員が集つた時初めて私も其の末席を汚さして戴いたのであり、會場は山口先生宅であつてハルエ先生とは九年振りでの再會であつたのである。

先生は私の子供心に殘つてゐた面影とちつとも變つてゐなかつた。唯幾等かあの當時の元氣さは見られないやうな氣がした。こつちが大人になつたのであるから、先生も中年になられた筈であるのに、九年前と同じに私の眼には映つたのである。今思ふと大浦時代は相當若かつたのであつたらうけれども、自分はそれ程若いとは思はなかつた。その時先生に會つたのと、小學校で先生に會つてゐたのと同じ樣な感じであつた。その頃もう中年の年頃に思へたのがなんだか不思議な氣がしてゐる。

此の時を機に何かと言ふと御邪魔し、又宿つたりした事も數度に及んだと思ふ。

俳句

屠蘇

六山人

屠蘇汲むや殖ゆる白毛を笑はれし
短日の庭師また來る幾日ぞ
僻事は言はじ聞くまじ屠蘇の醉

連續講談

異說赤穗浪士

いせつあかほらうし

桃川若燕
畫　城木喬

（129）

戀の女達

『……併し貴女樣がこの樣に御立派になつてお出で遊ばしたら、殿樣や奥樣は申すに及ばず、お兄樣もどれ程お悅び遊ばすでせう、この爺も嬉し涙をこぼします』

と云ひつゝ奥へ行かうとするのを止めた傳助は

『重兵衛、決してこの事は他言してくれるな』

『ハイ、では御主人樣には淺野家のお使者倉橋傳助樣弓矢の故實御傳授相成りたくお出でゝございますと申し上げませう』

と奥へ來ると此旨を取次ぐ丹後守は重兵衛の顔を見て

『重兵衛、何んで其方は涙を流してゐる……ナニ淺野家の御使者とよい參るぞ』

やがて衣服を改めて夫れへ

『淺野家御使者倉橋傳助といはれるのは其許か、拙者は長谷川丹後守である』

といはれて傳助は

『父上樣……』

といひたいのをヂッと堪へ

『ハヽッ』

と頭を下げ、やがて頭を上げると、髮の毛は白く額に老の皺を增してゐる

『ア、我程不孝な者はない、この髮の毛の白くなつたのも我が苦勞をかけたため』

と再び平伏して涙にくれるときに丹後守も傳助の顔をみてハッとしたが、勘當した伜今更名乘れるものではない、武士の辛いは玆の事と、心の内では淺野内匠頭のお心添へを謝しながら

『弓矢の故實は他ではない、一朝事あつたとき、君のお馬前に於て身命を拋ち名を萬世に轟かすのである。この儀必ずお忘れあるな』

余所に聞かすも我子への訓誨傳助は有難い父の敎へに

『ハヽツ、其の御一言、如何にも膽に命じ忘却は仕りません

『それさへ忘れねば別段申し入れることはない。御使者御苦勞であつた』

スーッと席を立つ、傳助は名殘を惜しみつゝ長谷川の邸を退きお家大事と勤めてゐると、計らずも兇變、そこで傳助は元々博徒まで身を落した事があるので町人に身をやつして吉良邸の内情を探る役目を受け持ち、吉良邸の附近相生町に吳服小間物を商つてゐる前原伊助、假りの名を米屋五兵衛方の手代といふ事にして名も和七と改めてゐる、ところがこの和七は男はいゝし愛嬌はあるから近所の娘達がワイ〳〵いつてやれ『櫛下さい』とか又は『半襟を一つ』と買ひに來る、その中で毎日のやうに和七の顔をみに來るのが綠町に住んでゐるお蘭といふ後家さんと來栖又兵衛といふ吉良家の御用人の妾のお蘂といふ女、お蘭は年頃三十四五、色白でふくよかな肉付き、上脊があつて大柄、目鼻立もあざやかで如何にも甘味のある年增振り、賃兩替お金御用だつた主人が死んで以來後家を立て通して來た怜悧者だが和七を一目みてからといふもの今までの貞節を一遍にパイにして、和七を目當にやつて來るのを、其處は苦勞人だけに伊助の五兵衛も承知してゐるから傳助の和七に

『生捕つて働かしてみたらどうだ！』

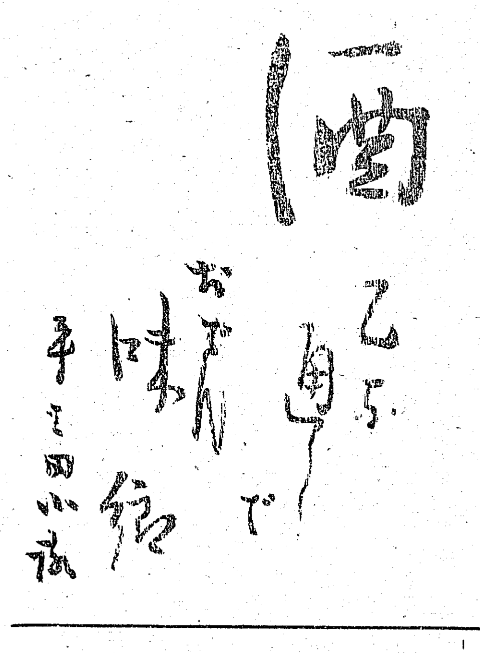
と吹きこんでゐる、といふのは金田屋のお蘭は吉良家のお金御用をしてゐるといふ便宜がある、お蘭を藥籠中のものとすれば、その手に依つて吉良家の内情は手に取る如く判る譯だ、云はれて見れば傳助もこれも主君への忠義のためと思へども、武士として女を欺すのは刀の手前出來ないと逡巡してゐるので、伊助の方がはがゆく思つてゐる

外科　内臟外科　腦脊髓病科　外科
整形　整形外科　レントゲン科　理學病法科
醫學博士　松村亨
胃腸　内科　胃腸病科　肛門病科
性病　花柳病科　皮膚科　泌尿器病科
醫學得業士　松村鐵郎
松村醫院
平市南町　電一〇七

㊇
和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

故障の起らぬ
原口のラヂオ
原口無線電機株式會社製品は商工省選定一級品
MD-8號 微電界級　MS-100號 微電界級
ダイナミツク
使用眞空管マツダ 12F 47B 57 58　使用眞空管マツダ 12F 47B 24B 24B
㊫¥.73.70　㊫¥.52.60
ラヂオは全部公定價格品です
ラヂオとデンキの店
古山電氣商會
平市二丁目警察署通り（電呼166）

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢



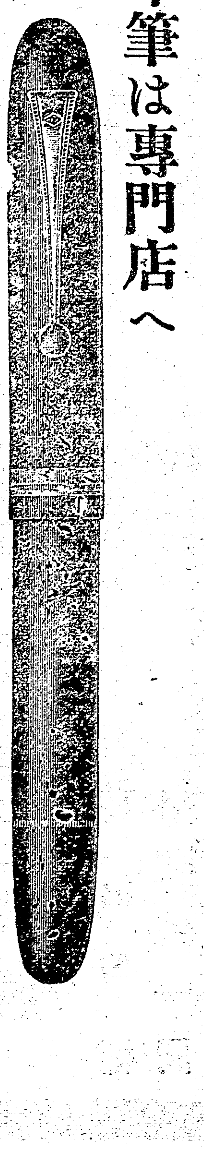
新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂
村山書店
平市驛前中央通り

平　四倉
復往券2割引40錢
▽新舞子　約二丁
▽仁井田浦　約二丁
▽四倉海岸　約一丁
▽波立藥師　約八丁
▽鰐ヶ淵　約八丁
團体は特に御相談に應じます
合名會社　電話五四九
平、四倉・乘合自動車

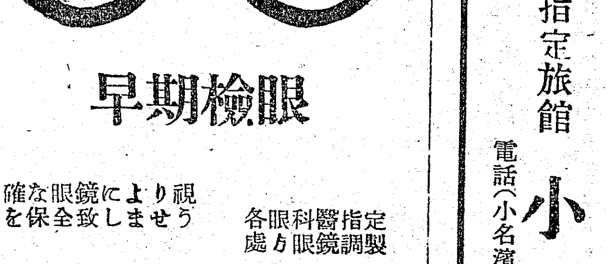
肋膜。氣管支。關節。神經痛。肺炎。ロイマチス
扁桃腺。中耳炎。骨膜腰痛。お疾に
漢方貼藥濕布で名藥
生公華
藥價　二圓五十錢　四圓　八圓
專賣店　平市五丁目角　山野邊藥局

種の味
榮養調味
醬油、鰹節、砂糖の經濟
極く少量の〃味の種〃を御使用になれば七分搗米や外米もフンワリ美味しく、榮養も高めて召上れます
△御飯を炊くとき米一升に對し小盃一杯
△其他和洋支あらゆる御料理に適宜に用ひると特有の味を生じます【二合瓶七十錢、四合瓶一圓三十錢、一升瓶三圓】
代理店
白菊酒店
平市田町【電話五四番】

萬年筆は專門店へ
㊫2.00以上
マルオカ萬年筆本舖
岡萬年筆專門店
平市中央通り



メガネの店
早期檢眼
正確な眼鏡により視力を保全致しませう
各眼科醫指定處方眼鏡調製
玉屋眼鏡店　平市二丁目　電話635（呼）



鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

土木建築
鐵道船舶仲仕
三崎組　太田勝康
（事務所）小名濱町日素前　電話五〇番

日立製作所指定工場
機械製作船舶一般鐵工業
丸八鐵工場
場主　倉乘常八
小名濱町　電一七五

㋑
磐城水產工業株式會社
小名濱町築港内　電一四四

日本油脂株式會社
特約店
ペイント類、ボイール油
ドライヤー、防錆塗料
船底塗料、屋根塗料
黑板塗料、
一手販賣

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店　關内正一
事務取扱者　阿部助次郎
平市二丁目　電話一一六番

一債券、公債
兩替、金融
多田井質店
平市大工町　電話五九一番

鳩尾加壓器（きつあかちおづみ）
【說明書實驗例無代進呈】
鳩尾を落すこ
胃腸は丈夫に動脈硬化が柔ぐ
一、鳩尾を落すことは千古を貫く保健の祕訣です、
一、使つた其日からこれは効くぞと判るのが特徴です
製造元　東京　林健體會本部
頒布元
頒布所
平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番

青年團の改組
正團員は青校生徒で組織
除外團員で壯年團結成

青年團の改組問題には平市聯合青年團も相當惱まされ新團結成に研究を進める一方正團員から除外されることに成る滿二十一才以上の青年指導にも前途を誤らぬやう壯年團を結成すべく準備を進めてゐる現在平市青年團は東部、西部北部の三青年團の上に聯合青年團があつて團員總數七百五十名位ある

新編成の青年團は滿二十才まで正團員とし二十才以上二十五才までの者は指導團員として殘し得ることに成つてゐるが、幹部に少數を殘すに止める關係上現青年團員の過半數が除外される譯である、これ等舊團員指導のため青年團と併行して壯年團を結成する

新編成の青年團は二十才未滿の青年學校生徒を以て組織される事になり、平市は現在第一、第二青年校（平窪）を合せて四百六十三名で平青年團を結成され市青年團と別個に縣立磐中青年團、佑賢青年團、片倉青年團等青年學校單位に別個の青年團が結成されるためこれを統轄する聯合青年團の編成も必要とされて居り現在の青年團以上に複雜化する

新編成は充分研究して
新團長、篠山第一校長談

別項、新たに結成される青年團の團長は原則的に青年學校長を以て充つる方針で、平市聯合青年團長篠山第一校長はそのまゝ新青年團長に任命されることに成る、右について篠山校長は語る

十八日の校長會議で新編成方針を明示されたが、目下國民學校の準備があるため弱つてゐる、今度の青年團は青年學校の在校生を以て組織することになるため結成は大したこともないが、男女別の部を設けるとか分團や聯合青年團等も考慮に入れる必要があり、除外される團員の處置は最も大切な問題でせう、充分研究して文部省の方針に沿ふやう具体案を樹てるつもりです

銃後施設展へ
四倉から廿二點出品

二十五日から三日間郡山市公會堂に開かれる銃後農漁村施設展覽會へ四倉町から圖書、寫眞、罐詰、加工品等二十二點出品した

四倉のアグリ
春職豊漁
一統で五千圓余獲る

四倉濱春職揚繰網は風浪の爲出漁出來ずにゐた處昨十九日出漁した結果各船共豊漁を見た、主なる豊漁船は石井鐵三郎氏所有船四十八社丸、長谷川西次郎氏所有船不動丸大和田キチ所有船御靜丸等の各五千圓を始め各船共三、四千圓の豊漁を見た

政府の木炭供出に
奬勵金廢止
但し、出廻りには影響ない

木炭の政府供出を督勵するため從來交附してゐた一俵十錢の買增し金（奬勵金）は三月十五日限り廢止することに成つたため、供出炭は激減し生産地の市町村に木炭出廻り旺盛になるものと縣民はホク／＼もの、一方縣外の消費都市は頗る不安を抱いてゐる樣子であるが縣林産物檢査所は供出炭には大した影響なく、從つて縣內の流れもこのため激增は見ないだらうと觀察を下してゐる

即ち政府供出炭の買增金廢止は供出炭が豫定通り進行し消費地の出廻り圓滑も多少原因してはゐても、三月以上供出を停止するものでは無い、一方奬勵金は生産者直接に交附するものではなしに、産組のやうな供出團体へ交附してゐるのだから買增し金を無くしても生産者は直接影響受けず供出數量には少しも變らない、縣當局は明年度に於て木炭增産に一層馬力をかけると同時に消費規正を强化して政府供出に力を注ぐ模樣である

今年のセリ市から
馬も公定價格
郡産馬組合が評價「闇値防止」

セリ日割決定

郡內二才駒糶は上遠野上遠野市場を皮切りに次の日割で行ふことに決定した

△四月三日から五日間上遠野村△同六、七兩日田人村黒田市場△七月九、十兩日川前村桶賣市場△澤渡村中寺市場無期延期

尚今年からは〃馬の公定〃價格證明證に依つて賣買されるので同證には馬名、生年月日性、毛色、特徵、家畜市場名等が記され郡産馬組合がこれに適當價格を附するもので不當暴利の抑壓に乘出したものである、今年糶市場出廻り豫想は縣並に郡産馬組合の增産奬勵が影響して質量共に見るべきものがあり相當期待されてゐる、尚ほ十五年度糶市場の平均價格は二百九十八圓・最高が一千十圓まで上り最近での記録を樹立したが今年も質が向上してゐるため昨年同樣の價格を持續するではないかと見られてゐる

武神で有名な
釜戸の奴祭り
廿二日例祭執行する

奴祭りで有名な渡邊村釜戸諏訪神社例祭は二十二日（舊正月二十七日）執行するが、當日は特に武運長久講中安全の大祈願祭を行ふ爲め相當の參詣者を見越して社務所では準備に忙殺されてゐるが東京芝居その他の催しもある

平税務署で
滯納鑛區競賣
金銀銅、石炭鑛區十五件

平税務署では豫てから鑛區税滯納を整理すべく督促を發してゐたが、一向肯んぜないものに對し斷乎强制處分することになり三月三日同署に於て公賣する旨公示した、今年度の公賣處分件數は金銀銅、炭礦等十五件で前年度に比較すると倍數に上つてゐる

時局産業の波に乘つて鑛山は含有物の如何を問はず何れも黄金時代を現出してゐるとき、試堀税も拂へず競賣處分を受ける件數が增加した原因は、一攫千金を夢見る素人鑛山師が雨後の筍の如く激增し、鑛區を發見しても自分で企業成らず賣買で一と儲けを企て、思ふやうに買手がつかない處から放置してゐるものが大多數で、競賣される鑛區の內には案外掘出しものもあり時局柄入札者は殺到するものと見られてゐる

本年度の
徵兵檢査日割

縣下に於ける本年度徵兵檢査は來る四月十七日から甲乙二班に分れて執行されるが、本郡關係の分は左の日割を以て行はれる

△四月廿四日より四日間植田町△卅日より十二日間平市

なほ場所は平市は公會堂、植田は小學校で、開始時間は午前八時からである

貯蓄報國債券
各銀行で廿一日から賣出す

既報、二十一日から十二日間各郵便局窓口より賣出される支那事變國債は利札附、割引の二種で平郵便局割當は十萬圓と決定した、うち利札附國債千圓券が半數を占め額面五萬圓を示してゐる、一方市內各銀行からはこれと呼應二十一日から貯蓄債券報國債券が賣出される、貯蓄、報告債券は次の四種である

△貯蓄七圓五十錢券（五圓）十五圓券（十圓）△報國、五圓、十圓

警防共濟基金造成に
大相撲「男女の川」來る
平市は三月卅一日の豫定

縣警防協會主催警防協會共濟資金造成の男女の川一行相撲大會は三月三十一日平工業學校敷地に開くことに成つた、入場料はとらず「警防協會共濟資金募集に際し寄附したものに招待券を贈る」即ち入場料に相當する額を寄附すれば招待券を出す仕組みに成つてゐる

尚一行は縣內各地を巡業する關係から雨天の場合は順次繰り延べられるため實際の興業期は四月初旬になる模樣である

明年五萬圓で
蛭田川改修
大井川技手實地調査

蛭田川十六年度改修工事は縣から大井川技手が來郡、十八日から三日間實地調査を行つた上四月より着工する、工費五萬圓、延長三百米、幅員五十米

尚同川は縣が昭和十一年度より七ケ年繼續工事で着工したもので總工費四十萬圓十七年度で完成する豫定である

昨日の降雨三斗餘
農作物は生きかへる

農事試驗場では茄子の温床蒔きを間近に控へ又胡瓜、南瓜等も相續いて期節に入るので〃今年こそ增産のとき〃と『暖い冬』と農作物の關係を調査してゐたが暖い割に降雨がないため水不足を來し又害虫の發生が多いことが判然としてゐるので同試驗場では『灌漑、害虫驅除等みつちりやつて貰はなければ增産どころか平作にも追ひ付けぬ』とこの對策に苦慮してゐる

昨十九日來の涸地を潤した春雨は增産に嬉しくも一日降り續き坪當り三斗三升三合余實に旱天に慈雨の有難さだが今後も一時的ではなく適當に降雨があれば水不足も自然解消するだらうと農家では空を仰いで一喜一憂の形である

海軍献金
小名濱比佐タマさん

小名濱町中坪比佐タマさんは十九日町役場を訪れ、陸海軍へ金五十圓宛を献金した

吉本師團長
遺族慰問
廿一日小名濱町訪問

吉本師團長は管下戰歿勇士の遺家族慰問のため二十一日午後四時三十分小名濱訪問、左の日程で遺族を弔問供物を供へ燒香する旨通牒あつた爲平市及小名濱町では準備を進めてゐる

△二十一日午後四時三十分小名濱町榮町、故上等兵山本榮宅（遺族山本福三郎）△二十二日午前九時、平市一町目三一、故上等兵富田行雄（遺族富田千枝）平市白銀町仝伍長、故加藤政英（遺族加藤トキ）

尚吉本師團長一行は二十三日白河町に向ふ豫定

平土木委員會

平市土木委員會は二十一日午後一時から市役所に開き十六年度豫算を附議する

四倉町手拭配給

四倉町役場へ第四回純綿手拭八百五十本の配給割當があつたので近く各隣組を經て配給する筈である

國婦へ寄附
四倉町

字本町野菜商鈴木松吉氏妻カネさんは野菜を行商した純益金の內より金拾圓を同町國防婦人分會に寄附した

市學務委員會
廿三日開く
明年度學校豫算審議

平市學務委員會は二十三日午後一時から市會議事堂に開き明年度學務關係豫算案を審議決定する

同學務委員會で第五小學校建築と平商校增築案の全貌明かに成る譯である

印刷工業組合
漸く具体化
當分事業は行はない

石城郡內の印刷業者も用紙の配給、公定價格表示等經濟体制に對應する建前から過般平市湯本金庫支店の樓上に會同加納印刷所佐藤作平氏を座長に推し協議の結果「石城印刷工業組合」（假稱）を設立することに決定、市商工會高木書記に規約其の他手續き書類作製を依囑した

郡內の印刷業者は平市二十三軒を筆頭に三十五軒數へてゐるが、組合結成しても當分の間事業は行なはず最抵出資金一千圓とし、用紙共同購入等の必要が生じた場合增資して活動する豫定らしい

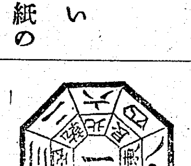
平市慶弔録

【出生】△本籍平市中平窪細田十二番地現住所大連市大和町高橋邦雄長女昌江さん△平市中鹽字松山二十一番地地引占義長男義幸さん

今週の映畫
三十日替り

平　館◎松竹作品、川浪良太郎、藤井貢、坂東好太郎主演「荒木又右エ門」◎日活多摩作品、日暮里子、築地燦子主演「雜草夫人」◎松竹大船作品坪內美子、三村秀子主演「節約夫人」◎文化映畫「鴨獵」◎日本海外ニュース

聚樂館◎東京映畫製作、柳家金語樓、若原春江主演「プロペラ親爺」◎東寶映畫、古川綠波、悅ちやん主演「ロッパの子守唄」◎漫畫三映社提供「のらくら兵隊」◎日本ニュース



舊正月廿六日
金曜　庚子　友引　開　鬼宿
新二月二十一日

▲一白　苦勞して歸れば福は內に來りて待つが如し

▲二黑　目上の引立に依り滿足する程の喜を招かん

▲三碧　萬事有利に展開せんとする日怠るべからず

▲四綠　意氣盛なれども實力は之に伴ひ難き危險日

▲五黃　內輪に面倒なる事起らんとする日親和專一

▲六白　運氣佳なれど安心に過ぐ可からず失物に注意

▲七赤　外敵を防ぎて內を守れ迷惑の起ることあり

▲八白　諸事失敗の兆あり消極的に處理するが安全

▲九紫　遠方より幸便來る事あり家計大事に怠るな

天氣豫報

今晩　北西の風曇りから段々に天氣に向ひます

明日　北西の風晴勝ちの天氣

（二十一日）

滿潮　前一〇、三五　後——

干潮　前……　後七、三五

郷土の傳說
（5）
〃蛇〃物語り
青瀧堤の〃血櫻〃
草野村絹谷所在

【血櫻】

今日でもう旱が三十日餘も續いた。田畑はから／＼に乾上つてしまつた。田には龜裂を生じ畑の作物は枯れかゝつてゐる。絹谷の村人達は寄るとさわると旱で困つた話ばかりしてゐる。かうなると青瀧の堤の水が唯一の賴りであるが今日此頃はどうしたものか水門から水が少しづつしか流れ出ない。どうしたのだらう、堤の水はまだ半分以上もあるのだから流れ出さぬわけはない。その中に、これはこの堤の主の大蛇が水がなくなると自分の住む所がなくなるので、水門をふさいでゐるのだといふ噂が立つた。それで誰も恐しがつて水中に飛び込んで水門を開かうとするものがない。しかし今は一日の猶豫も出來ない或勇敢な若者があつて『それでは俺が入つて行つて水門を開いて見せる』といつて水中に飛び込むことになつた。村民が多數岸に立つてその若者を激勵した、素つ裸になつた若者は短刀を口にくはへてざんぶとばかり水中に飛び込んだ。さつきまでわい／＼勝手なことをしやべつてゐた村民も一樣におし默つて固唾をのんで水面を見つめてゐる。眞夏の太陽は雲一つない眞青な空にギラ／＼と輝いてゐる一秒、二秒、やがて二十秒も經つた頃水が激しく搖れて來た。その中に眞赤な血が浮いて來た。岸の人々は眼を見張つてそれを見つめてゐる。やがて若者は眞赤な水の中から浮び上つて來た。人々の目にはその姿が英雄のやうに賴もしく見えた。岸に泳ぎついた若者は息をはづませながら『矢張大蛇がゐたよ』といつてごろりと横になつた。そして眼をつむつたまゝ動かうともしない。余程疲れたらしい。

暫く經つてから大きな蛇の死骸が水面に眞白な腹を見せて浮んだ時は『あつ』といつたまゝ村人達は驚駭と驚嘆の聲をあげた。水門は開かれた水はどん／＼と流れ出した。それにも增して人々を喜ばしたのは一天俄かにかき曇つて大雨が沛然としてやつて來たことである。彼等は文字通り蘇生の思ひがした。

村人達は蛇の死骸をとりかたづけて、堤の北の方の岸に丁寧に葬つてやつた。そして櫻の木を一本その上に植ゑておいた。櫻の木が大きくなつて花が咲き出すと村人達は、水が一面に赤くなつたあの當時を思ひ出して、櫻の幹を切ると中から血が出るではないかとまで思ふのであつた。そして何時の時代からかこの櫻を血櫻と呼ぶやうになつた。

爛漫と咲き誇つた櫻の青い水に影を映じてゐる陽春四月の頃は實に美しい眺を見せる虞美人草の眞赤な色が虞美人の鮮血が化して出來たといふ支那の傳說にも似て血櫻の傳說は面白い。

草野村絹谷の青瀧に就いての蛇の傳說は以上のやうに傳へられてゐる。青瀧の堤は草野村の北方一里强の所にある相當大きな堤であつて、絹谷の部落を過ぎ坂を登つて行くと石森山の方に通ずる道の右側にある。岸には道路に沿うて柳の木が二本ばかりあり、右手の方に一本相當の年數をへた櫻の木がある。傳說の血櫻といふのがそれである。此堤のずつと上手に小さい瀧があり、青瀧といふ名はそれにもとづくもののやうである。樹木の茂つてゐる春から秋にかけては景色の好い所のやうに思はれる。

◇

此堤の上手に青瀧觀音堂といふのがある。昔佐州の僧沙彌宗永が始めたといふ磐城三十三觀音の札所で、德一大師の建立、觀音像は石森觀音と同木同作といはれてゐる

巡禮歌

山ふかく登りてをがむせんじゆだう
なちのお山にまさる青瀧

謹告

今回其筋の慫慂と各業者新体制下に即應して市內六タクシーを合同致し營業所を平驛前元昭和タクシーに設置致し營業開始仕り候

從つて今後は一切當營業所以外に於てはタクシーの御用命は申受けざる事と相成り候倍舊の御引立御願申上候

昭和十六年一月十日

有限會社　平合同タクシー
電話三四三番

御得意樣各位

フクロク・ストーブ
入荷のお知らせ

◎久敷品切れ致し居りましたが此度少々配給入荷致しました

◎此度の入荷で當分入荷の見込みはありません

御入用の御方は品切れにならぬ中に成るべく早く御注文下さい

【御希望の方へカタローグ「公定價」を差上げます】

平驛前　阿部石炭店
電話37番、137番

純綿純毛品提供に就て

◎純綿、純毛の更生品提供に就て當店主伊關房次は日露役に參加し奉天戰に負傷、傷痍軍人の呉服商となつたが今支那事變に資材充分でないところから商業組合理事として配給使命を達成すべく全國産地を視察見學の際思ひ付たのが更生品の配給である、これならば農山村から確かに喜ばれ樣と昨年から始めたところが異常な好評を受けてゐるのでありますどうぞ御遠慮なく御覽下さい、

純綿、毛オーバ
背廣、ジャンバー
野良着、ズボン、
カスリ、その他

平市二丁目角
伊關呉服店
電話三　三三番

◎生徒募集

第一學年二百名

入學申込　四月五日限り

平市城山
磐城青年學校

新体制下の女性に

◎社會待望の高尚なる婦人職業
◎又は日赤志願の準備として

産婆看護婦をお奬め致します

三十六回　生徒募集

◎今申込の時期

平南町　産婆看護婦學校へ

平産婆看護婦學校
電話三〇七番

御會葬御禮

昭和十六年二月二十日

男　蓮沼龍輔
外親戚一同